

小倉百人一首の歌人たち(在原業平編)

“ちはやぶる 神代もきかず 龍田川
韓紅(からくれない)に 水くくるとは”

よく小野小町に対比して、美男歌人と伝えられ、幾多の色恋物語を残す。

父は桓武天皇皇孫阿保親王、母は桓武天皇皇女伊都内親王、在原行平は母違いの兄にあたる。

「六歌仙」「三十六歌仙」にも撰ばれ、その歌は古今集の序で「その心余りて、詞(ことば)たらず、しばめる花の色なくて、匂ひ残れるがごとし」と評され、情熱がありすぎて、表現に不十分な点がありしばんだ花の色つやがすでに失せて、なお芳香が残っているという感じでもある。伊勢物語の主人公と目され、各地に説話を残す。

特に前号で触れた小町の晩年の哀れを誘う「あなめ」の説話は、伊勢物語から生まれた。

陸奥に旅した業平が「八十島」という所で、野の中から「秋風の吹くたび毎に、あなめ、あなめ(あま目)が痛い」というのを聞く。さがしたところ薄の生えた髑髏を発見。何事かと問うと「小町がこの国に至りて、ここにて命終わりけり、即ち、かの頭なり」という。業平哀れに悲しく想い、下句をつけて「小野とは言わじ、すすき生ひけり」と。

京都では、中京区間之町通御池下る東側に邸跡が示され、洛西十輪寺は「なりひら寺」と称され、隠棲所とし、近くの大原野神社でかつての恋仲、清和天皇皇后・高子との塩焼煙にたくす恋物語がつとに有名。奈良では、祖父平城天皇の「萱の御所」といわれた「不退寺」が「業平寺」と称され、縁の寺宝を数多く有している。又、芦屋市では、父阿保親王の墓所もあり、業平町、業平橋、業平桜、業平煎餅まであって、業平のゆかりを誇示している。

(日本かるた院本院 参与 河田 久章)



十輪寺本堂

活動報告(19年10月～20年1月)

※専門部会の活動

- 歴史探訪部会 10月4日
第4回「小野氏の郷と蓮華寺を訪ねて」
- 美化活動部会 11月17日
立本寺の清掃

●広報部会 都草だより第一号発刊準備
※各種案内業務

- 京都府庁旧本館の案内業務
10月31日～11月4日、12月1日
- 京都府庁周辺案内ツアー
11月21日 府庁周辺の史跡と旧本館
11月22日 三条通近代西洋建築と
京都府庁旧本館

- 19年度秋季京都駅臨時観光案内所にて
11月16日～11月25日案内業務
- 深草稲荷保勝会の歴史ウォーク(別記)

※都草主催事業

- 第一回京都観光文化講座
11月11日 ひとまち交流館 京都で実施
井上満郎先生講演(都草顧問)

- 第一回“京都通”実力テスト
11月11日 ひとまち交流館 京都で実施
受験者数58名

◎12月18日 都草サロン開催
ホテル日昇館にて、親睦を深める。

※第3回「都草」研究発表会 1月13日
第一部「よろしおすえ京言葉」
朗読:京ことばの会
第二部「小倉百人一首と京都」河田久章氏

<伏見稲荷大社と錦秋の東福寺名刹を巡る>

深草稲荷保勝会の主催で、標記の歴史ウォークが11月24日行われた。秋晴れの天候にも恵まれて多くの人々が参加、都草会員20名が紅葉の石峰寺、稲荷大社、東福寺芬陀院などを案内しました。

この催しは歩こう会として毎年春秋に行われ、今年で42回目を迎えました。今回は参加者に深草稲荷の歴史について一層理解を深めてもらうため、私たち会員が同行し一つ一つの史跡について解説を加えました。お客様からは地元にも知らないことが多く、大変参考になったと喜ばれました。
(林 副理事長)



編集後記

0号発刊から、はや5ヶ月が経ちました。この度1号を発刊する事ができました。「少しでもオリジナル情報を発信しよう」と試みましたが、いかがでしょうか。ご意見、ご感想を編集委員までお寄せ下さい。(亀田)

第1号

NPO 法人 京都観光文化を考える会



都草だより

平成20年3月1日発行
発行人:坂本孝志
編集人:亀田正昭
発行所:京都市南区吉祥院
石原長田町1-1
桂川ハイツ3-802
TEL:075-671-0088

東福門院ゆかりの『光雲寺』を訪ねて！！

若王子より哲学の道に沿って北に向かうと、左手に樹木の間から大きな屋根が見える。狭い階段を降り、土堀に沿って左に曲がると、表門の前になる。そこが『光雲寺』である。一般の拝観はできないが、禅宗寺院独特の風格を外からも窺い知ることができる。

『靈芝山光雲寺』は、南禅寺北の坊とも呼ばれる境外塔頭である。中興開山は南禅寺天授庵の英中禅師で、寛永年間、再興当初は五千数百坪の広大な寺域に七堂伽藍を構えていた。しかしその後たび重なる天災や明治初期の荒廃、琵琶湖疏水工事の影響などにより寺域は大幅に狭小化された。現在はただ仏殿と鐘楼を残すのみであるが事実上の開基である東福門院ゆかりの品々が多く伝えられている。その一つ、念持仏を納めた舍利塔は、台座の中央に朝廷の菊の御紋が、左右には徳川の三ツ葉葵の紋が刻まれている。



禅宗様仏殿

そこに朝廷と幕府の和合をはかるため入内された東福門院(徳川秀忠娘・和子)の御心が読みとれる。

その御心は再び戦乱の世を招かぬよう幕府と朝廷



京都市指定文化財 東福門院の木像(寺宝・秘蔵)

注1

寛永ルネサンス(林屋辰三郎氏が提唱)江戸初期、中でも寛永年間の文化・芸術に後水尾天皇の理想とする王朝文化への回帰が盛んとなり、王朝文学からの着想が本阿弥光悦・俵屋宗達などの作品を生んだ。寛永の宮廷文化は、他の時代にはない広がりをもつ芸術運動(文化復興)となり、今日の京都の礎となった。

の共存と平和を願う女人の強い意志に違いない。東福門院は入内後一度も江戸に帰らず後水尾上皇と生涯仲良く宮廷人として生きたと伝えられている。

讓位後の後水尾院とともに文芸復興に取組まれ、今日見る社寺の多くは東福門院の援助により、復興及び修復されたと言われている。ここ京都に王政復古を夢見て、花開いた寛永文化の後ろ盾ともなり、伝統工芸の技を育んだ東福門院の存在に想いをめぐらし、偲んでいただけたらと願わずにはられない。



本尊:釈迦如来像と左右に阿難・迦葉の二尊を祀る

◆靈芝山光雲寺・禅センターの案内

光雲寺の場所は次ページのイラストを参考にして下さい。光雲寺では以下のアドレスにホームページを開設しております。
<http://www.zencenter.jp>
また「楽道庵ホームページ」では『禅と東洋の心～無我と至誠の生き方～』という表題でトップページを飾っております。こちらのアドレスは <http://www.rakudo.jp>

ページ内のコラムには
* 楽しい人生を生きる
* 大愚のすすめ
* 無我と至誠 等々一度覗いて見て下さい。
毎週第二、第四日曜日に座禅会を実施しております。どなたでも参加可能です。

注2

後水尾天皇(1596-1680)は後陽成天皇の第三皇子。幕府と対立して寛永6年退位、その後、4人の天皇を即位させ、院政をしいた。五節会などの朝儀の復興などに尽力し、朝廷の権威を高めた。仙洞御所のサロンには公家及武家(金森宗和ら)や僧侶(池坊専好ら)に上層町衆も参加し、文化の担い手である当代一流の人達が集い、寛永文化の華を咲かせた。